

サステナビリティ

マテリアリティ2 サークュラーエコノミーの実現



帝人グループは、製品の長寿命化、3Rの促進によって、サーキュラーエコノミーの構築に貢献します。



これまでの社会は、大量生産、大量消費、大量廃棄を繰り返して進化してきました。しかしその結果、資源の枯渇や環境汚染、ひいては生態系に大きなダメージをもたらしました。帝人グループは素材をはじめとするものづくりの会社として、循環型社会に向け3Rに努めてきましたが、その取り組みをさらに進めていく必要があると考え、「サーキュラーエコノミーの実現」をマテリアリティとして掲げています。

消費するだけの経済が続く社会は「持続不可能」な社会であり、帝人グループは、自然の生態系サイクルのような「捨てる」という概念がない、資源が循環しつづける「サーキュラーエコノミー」への転換に貢献したいと考えています。生産活動で資源循環に努めるのはもちろんのこと、資源が排出されたところにリサイクル製品を還元して使ってもらい「地産地消型マテリアルリサイクル」など、社会の“サーキュラー化”を進めていくことで、深刻化する海洋プラスチック問題の解決にも貢献していきます。

環境価値ソリューション（リサイクル等）

サーキュラーエコノミーを実現するには、廃棄物の発生を前提とするのではなく、有害な廃棄物を排出せず資源を使い続けることができるような社会の仕組みに変えていく必要があります。帝人グループは、製品の長寿命化とシェアリングにつながる「高耐久・高品質素材」の提供を心掛けるとともに、「リサイクル技術の開発・提供を通じたパートナーシップ」によって、バリューチェーン全体での資源循環性の向上に貢献します。

地産地消型リサイクルの仕組み



回収から一貫して商品化できるのは帝人グループのオリジナル技術

資源有効活用・廃棄物削減

資源循環を促進するため、帝人グループでは廃棄物削減に向けて、「埋立廃棄物の売上高原単位を2030年度までに2018年度比10%改善」という目標を掲げています。また、水資源の保全に向けては、水使用量の少ない製品の拡大により、「淡水取水量の売上高原単位を2030年度までに2018年度比30%改善」という目標を掲げています。

関連情報

[マテリアリティとKPI](#) > [ソリューションと価値創造](#) > [資源循環への取り組み](#) > [水資源の管理](#) >